

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800017		
法人名	株式会社 平安		
事業所名	グループホーム ききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505-2		
自己評価作成日	令和2年7月16日	評価結果市町村受理日	令和2年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190800017-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190800017-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年8月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の尊厳を尊重し、穏やかで安心、安全に、快適に落ち着いて過ごせる場所を提供し、自分のままでいられる生活場所作りを心がけています。スタッフ自身もここで過ごしたいと思える施設づくりを目指しあたたかい心のこもったサービスを提供していきます。地域の方の協力やイベントの参加など募り地域に密着した施設を目指しています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者及び職員は、利用者が、毎日を居心地良く穏やかに過ごすことが出来るよう、一人ひとりの思いを尊重しながら、細やかなケアの実践に努めている。また、地域とのつながりを大切に、協力を得ながらより良い関係を構築している。管理者は、職員の様々な意見を反映しながら業務改善を行い、働きやすい職場環境作りに努めており、職員は長期勤務者も多く、仕事に誇りとやりがいを持って、利用者本位のケアに取り組んでいる。また、職員として看護師を配置し、協力医と連携しながら看取りケアにも取り組み、本人・家族が不安なく、安心して過ごすことが出来るよう支援に努めている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とは事業所が目指すサービスの在り方を示したものであり、自分たちもこの施設を利用したいと思えるようなサービスを提供するための事である	理念の共有方法として、玄関での掲示や職員一人ひとりへ配布し、常に各自で確認できるよう工夫している。利用者が、日々、安心・安全に過ごせる支援について、会議及び研修時に話し合い、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会とつながりながら利用者が暮らし続けていけるようにするため、事業所が地域で孤立しないよう地域住民と積極的に交流をはかり取り組んでいくことに重点に置いている	例年は地域住民・家族を招待し、夏祭りイベントを開催していたが、現在は、新型コロナの影響により、自粛している。終息後には、音楽療法や慰問、習い事教室開催等で、地域住民やボランティアとの交流を再開し、関係作りに努めていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で内部研修をおこない実践経験も活かし、地域の方にも理解してもらえよう積極的に交流をはかり協力を求めるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みを出来るだけ地域の方に伝わるよう、定期的に運営推進委員会を開催し情報提供に取り組み理解と協力を得ている	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染予防の為、市の指示により、3月以降の開催は中止となっている。民生委員の交代があったが、法人全体の説明を行い、スムーズに申し送りも行われた。	運営推進会議は、3月以降、中止となってしまったが、会議メンバーとの意見交換や協力関係が中断してしまわないよう、書面会議で開催するなど工夫し、会議開催の継続に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度市町村から介護相談員を受け入れ、職員や利用者の日常生活を見て頂き、見たこと感じたことなどの意見を聞き今後の介護の在り方について考えるよう取り組んでいくことが大切です	運営推進会議には市の担当者が参加し、意見交換及び助言を得ている。月1回来所の介護相談員からの助言もケアに活かしている。国の補助金制度を活用して防災用発電機を設置し、視察団が20名ほど来所している。意見交流を行いながら、協力関係の構築と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解するためミーティングなどで勉強会を行い、利用者の行動を理解し把握した後で今後のケアについて話し合い安全・安心を重点に置き介護を行う事が大切です	管理者と職員は、月1回開催する職員会議でも日々のケアについて話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束に関する職員研修を行い、学びながら理解を深めており、現在、身体拘束はゼロである。	現在、拘束が必要な利用者はないが、身体拘束等廃止委員会を作り、日々のケア及び環境についても定期的に分析し、今後も予防に努めていきたい。また、身体拘束に関する会議の議事録及び報告書を作成して、整備されることにも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等はミーティングや研修などで学んだり、日常生活の中でも利用者の観察を行い、早期発見に努めたりして会議し防止に努めている		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村の研修等に参加し権利擁護や成年後見制度について理解し、これを周知することにより利用者家族からの相談などに確実な返答が出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にケアマネや管理者が利用者や利用者家族と面談を行い話し合いを十分に行い、概要や契約内容を理解をして頂いた後に契約を結ぶように行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会で家族代表に意見を述べて頂いたり、ケアプラン作成時家族の方との面談をしたりして意向や意見を聞き今後の対応に反映しています	家族が来所した際には、意見や要望を直接聞くよう努めている。来所が困難な家族には、電話で意見や要望を聞いている。また、運営推進会議に参加した家族代表からの意見も踏まえながら、利用者・家族の意見を把握し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回職員が全員あつまりそれぞれの意見を聞いたり今現状で問題になったりしていることを中心に話し合い解決している	管理者は、日頃から職員と意見交換し、月1回開催するミーティングでも話し合いながら、業務改善を行っている。また、職員研修を積極的に開催して、職員の資質向上をサポートしている。職員もまた、やりがいのある働きやすい職場と評価し意欲的に勤務している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生が充実しています、設備改修もおこなったりして職員の労働条件の見直しがあり働きやすい環境になったと思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回以上の研修参加により介護技術の向上をはかったり、健康診断や腰痛検診などを受診して自身の健康にも気を使ってもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くの研修に参加する事により、他の同業者との会話も増え情報交換など行うことにより、新しい技術やサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めはアセスメント表を活用しながら、本人との会話に耳を傾けながら安心感を持ってもらい信頼関係を気づいていけるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になり話し合いをしていく中で、家族の要望を受け止めながら安心して任せてもらえるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との会話の中で今一番困っていること。必要としていることをみんなで見極めサービスを提供していくように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、本人のこれまでの生活を変えないようにして一緒に暮らしているような場所にして行きたいと思っています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が来所された時など、日常の情報を提供し安心して頂けるように努め、本人・家族・職員との信頼関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方以外の方の来所も快く受け入れその方とも関係が途切れないよう対応しています	家族、親戚、友人が訪ねてくることが多く、職員は、利用者との馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。現在、新型コロナ禍にあるが、面会場所を考慮して換気をこまめに行い、3密を避けた環境作りを工夫しながら、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	色々な催し・レク等を行い利用者同士でコミュニケーションを図り会話を楽しんだりできるように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了になっても家族の方からの相談や話などにも耳を傾け親身になって応じるようにしています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いろんな観点から本人を観察しミーティングで職員全員が把握でき対応していけるようにしている	本人及び家族からの希望や意向の把握に努めている。勤務年数が長い職員も多く、利用者の変化をよく理解している。日々細やかな観察と分析のもと、職員同士が情報を共有しながら、利用者の思いをケアに反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方から聞き取りを行い、今までの生活歴を把握し、ここでのサービスに役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状態を細かくケア記録に記載し現状を職員全員で共有しながら日々変動に対しての観察を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に職員同士が意見の交換を行い、一番適した介護を検討して介護計画を作成して現場に役立っている	月に一度、モニタリングを行い、介護計画の検討を行っている。職員が中心となり、本人と家族の情報を収集し、それをもとに話し合いながら、計画の見直しを行っている。家族の意見は来所時や電話で確認し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に一日の行動を細かく記載し職員全員で情報を共有しながら観察を行い状態にあった介護を日々検討し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中でのサービスを提供するうえでニーズに合ったサービスを提供するため一人一人に寄り添い理解してサービスが提供できるようにしている		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一回介護相談員の来所受け入れで利用者の現在のホームでの生活を見て頂き、利用者にも声をかけて頂き親身になって対応してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により今まで通りの主治医や当施設の主治医と連携を取り、定期的に往診を受けて的確な治療が受けられるようにしている	かかりつけ医については、契約時に説明し確認している。希望があれば、これまでのかかりつけ医でも可能であるが、現在は全員が協力医に依頼している。月1度の往診を受け、必要時に受診している。受診が必要な場合は家族に連絡を取り、家族または職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で小さな変化など異常時は看護師に報告相談したり、かかりつけ医の指示を受け対応しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネ等が入院先の病院に行き看護師や相談員と連携を図り退院後の対応の準備を進めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族より看取りの希望があり、医療行為を必要としない場合は当施設において穏やかな生活を続けていき最後を迎えるように努めている	重症化や終末期の対応については、契約時に意思確認を行っている。看取り経験がある職員も多く、本人・家族に適切なサポートを行っている。看取りを希望する家族も多く、医師、看護師、介護職員が連携を図り、家族の協力を得て、看取り体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会等の実地や連絡先などが分かりやすくマニュアル化されている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方を施設に呼び定期的に職員と利用者は避難訓練を行っています。時間により緊急連絡網が配布され速やかに対応できるようにしています	年2回、避難訓練を行っている。昨年は地震体験車による疑似体験を実施している。緊急連絡網及びSNSを活用した一斉連絡の体制を整え、自家発電装置を設置し、災害時に備えている。運営推進会議において、ホームが福祉避難所であることを伝え、地域との連携も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状態にあったサービスを心がけ利用者の気持ちになって介護を行っています。	管理者と職員は、会議や日々のケア時に、一人ひとりの利用者の状態に応じたケアが行われているか確認している。徐々に機能が衰えていく利用者の場合でも、細やかな配慮とサポートに努め、誇りやプライバシーを傷つけることなく、一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々日常生活の中での介助で本人の思いや、希望を見つけ出し、ご自分で判断し決定できるように周りからアドバイスをし働きかけるようにもっていています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日程はある程度決まっています。参加などは自由にさせていただいていますが、声掛けなど行い出来ることを少しでも引き出し生活にメリハリをつけてもらえるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日快適に過ごせるよう季節に合った服装を着て頂くよう心がけています。ご自分でも希望の洋服を着て頂けるよう居室に箆笥を置き対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が一番の楽しみになると思います。お一人お一人が喜んで食事を楽しんで頂けるよう、その人に合った食器、盛り付け、色合い等に心がけています。	昨年から、昼・夕食は、会社が運営している配食サービスを取り入れており、栄養士が作成した栄養バランスを考慮した献立で提供している。朝食、おやつ、誕生日会などの行事食などは、利用者の希望を反映しながら職員が工夫して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人に合った食事の提供、水分、栄養のバランスが確保できるよう心掛け、栄養面でも栄養士が考え配食を導入してバランスの良い食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはすべての利用者様に支援し、自分で口腔ケアの出来る人は見守り、自分で出来ない利用者は介助し常に清潔保持に努めています		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔など、ケア記録を参考にして、トイレの誘導時間等を話し合いその人に合った間隔でトイレの声掛けをおこなっています	ケア記録をもとに各利用者の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。常に職員同士で話し合い、利用者の状況に合った排泄支援に努めている。現在、全員がトイレでの排泄が維持できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から制限のない利用者は水分を多くとってもらったり、体操や歌など行い筋力を付けるようにして自然排便が出来るよう工夫をしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日時を決めて実施しています、入浴時間は決まっていないので来てもらえる方に入ってもらっています。入浴時は昔話をしたりして会話を楽しんでいます。あと体の異変などを注意深く観察しながら安全、安心してもらえるよう介助を行っています。	週3回の入浴日に、利用者の希望時間に支援をしている。利用者の安全・安楽な入浴を支援する為に、入浴日の職員を増員し、浴室内担当2人(リフト利用)、着脱担当1人を確保して支援を行っている。入浴時には全身観察により、異常の早期発見・対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクをしたり、ご自分のペースで得意なことをしてもらいながら過ごしていただいています。昼寝などは適度に行い夜間眠って頂けるよう配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の現在の病気や状態を理解しながら薬の処方箋など確認し、名前と薬の名前を必ず確認して、飲み忘れや、誤薬がないように気を付けています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは何でもしたいという意欲のある利用者様には、その方に合った作業を見つけ手伝ってもらいます。とても生き生きされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナの為ホームでは自粛していますが、収まったら隣接するしゃくなげでの慰問や演奏会、行事外出など行って行くよう考えています	職員は、季節の行事を企画したり、日常の散歩など、利用者の希望に添って外出支援に努めている。現在は、新型コロナ禍による自粛のため、併設の小規模多機能ホームとの交流により、利用者の気分転換が出来るよう努めている。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の中でお金を持つことは大切なことですが、施設外に出ることも今の状態では厳しい状況です、施設ではお金を使うこともないため、必要時は管理者が対応しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば管理者や職員が支援しながら対応しています。年賀状のやり取りなど希望を取って対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は利用者と一緒に作った季節事の作品を展示したり、掲示板を設け、行事の案内などを貼り出したりしています、施設内は常に清潔にし気分よく過ごせるよう、空調等の設備も整えています	共用スペースは広く、高い天井、大きな窓により明るく開放的である。要所に季節の作品などが飾られている。リビング横の対面式キッチンからも、利用者の様子や行動が見渡せ、職員も見守りがしやすい。換気のために窓を開け放しても、心地良い室温・湿度が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に入出りできる居室やソファなどくつろげる場所は確保していますので、利用者が好きな場所で休んでもらえ、安全に過ごせるよう見守りが出来る範囲内で工夫を行っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との写真等希望であれば居室に置かせていただいています。夜間などの見守りも光センサー等を設置し利用者が不快にならないよう見守りをしています	居室は窓が大きく明るい。室内の整理整頓がされ、利用者個々のお気に入りの物が置かれている。利用者の動きによって反応する光センサーが設置されているが、無音で知らせるシステムで、静かな環境を維持しながら利用者を見守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は車椅子や歩行器、杖など安全に移動が出来るよう手すりや廊下の幅を広くしたりして工夫を行い、一人一人が自由に自立した生活が行えるようになっていきます		